

令和7年度 山形県 英語教育改善プラン

目標

自ら思考・判断しながら、自分のことや身近なことについて、考えや気持ちなどを伝えたり質問したりする児童の育成

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①ALTと連携し、十分なインプットを基にした指導の充実が図られている。
- ②コミュニケーションを行う目的や場面、状況などが明確な言語活動の工夫が見られる。
- ③児童と単元で目指す姿を共有したうえで、主体的な学びを促す指導の充実が見られる。

(学習到達目標の公表

R4:27.6%⇒R5:60.8%)

- ①自ら思考・判断して考えや気持ちを伝え合う言語活動の質・量について、改善の余地がある。

(言語活動の割合(授業の50%以上) R5:88.9%)

- ②「英語の勉強がよく分かる」と捉える児童の割合について、向上の余地がある。(R6:75.8%)

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

- ①②③「学校教育指導の重点」を作成し、各学校と授業づくりの重点を共有するとともに、市町村教育委員会と県教育委員会が共通理解のもと、指導・助言を行った。

- ①②③英語教育実践リーダーが重点等を踏まえた実践研究を行い、具体的な実践の成果を県内に普及した。

- ①その場で英語を用いて伝え合う活動や、児童の発話を促す教師の英語使用の充実に着目して助言を行うことが一層求められる。

- ②言語活動を通した「指導」を、育成を目指す資質・能力に即して具体化できるような助言や実践共有が十分でなかった。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③「各教科等の指導の重点」に基づく授業改善の推進
重点事項に対する取組みを具体的に明示し、学校と市町村・県教育委員会が授業改善の視点を共通認識した上で、授業づくりや指導・助言を行う。

- ①②実践推進校による授業実践と実践事例の発信
県内10校(小5校・中5校)の実践推進校を指定し、「系統的な指導の充実」と「英語発信力の向上」に向けた取組みを行う。クラウド上で実践の発信を行い、全県の英語教員と共有する。

- ①②研修会を通した授業改善の推進
県の課題を踏まえた研修会を開催し、理論等の理解を深めるとともに、実践力の向上を目指す。

- 一定の英語力を有する小学校教員の拡充
教員採用試験ガイダンス実施の際に英語力がある教員を求めている点について周知を図っていく。教員採用試験においては、「小学校英語教諭」の選考枠を設けるとともに、英語力のある受験者に対して加点措置を行う。(2026年度採用山形県公立学校教員選考試験における加点措置: 実用英語技能検定2級以上、TOEFL iBT 65点以上、又はTOEIC (IPテスト含む) 600点以上のいずれかを取得している者には10点加点)

(参考URL: 県HP「英語教育の推進」)

<https://x.gd/XaCuJ>



令和7年度 山形県 英語教育改善プラン

目標

自ら思考・判断しながら、日常的・社会的な話題について、考えや気持ち、事実や理由などを即興で伝え合ったり、まとまりのある内容を伝えたりする生徒の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 46.6% ⇒ R7: 54.0%)

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にした言語活動への意識が向上している。
- ②R6全国学力・学習状況調査から、「英語を聞いて概要や要点を捉える活動」の充実が図られている。
(R5:78.2%⇒R6:83.0%)

未だ改善が必要な点

- ①R6全国学力・学習状況調査から、「即興で自分の考えや気持ちを伝える活動」の充実について、改善しているが引き続き向上の余地がある。
(R5:63.8%⇒R6:64.9%)
- ②教師の英語による発話の充実について改善の余地がある。(R5:63.2%)

2. 要因分析

- ①②「学校教育指導の重点」を作成し、各学校と授業づくりの重点を共有するとともに、市町村教育委員会と県教育委員会が共通理解のもと、指導・助言を行った。

- ①②英語教育実践リーダーが重点等を踏まえた実践研究を行い、具体的な実践の成果を県内に普及した。

- ①②授業において生徒と教師の即興でのやり取りの充実や、原稿や型を示さない活動の充実が一層求められる。

- ②教員の英語使用を踏まえた授業づくりやその効果についての指導・助言が不十分であった。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②「各教科等の指導の重点」に基づく授業改善の推進
重点事項に対する取組みを具体的に明示し、学校と市町村・県教育委員会が授業改善の視点を共通認識した上で、授業づくりや指導・助言を行う。

- ①②実践推進校による授業実践と実践事例の発信
県内10校（小5校・中5校）の実践推進校を指定し、「体系的な指導の充実」と「英語発信力の向上」に向けた取組みを行う。クラウド上で実践の発信を行い、全県の英語教員と共有する。

- ①②研修会を通じた授業改善の推進
県の課題を踏まえた研修会を開催し、理論等の理解を深めるとともに、実践力の向上を目指す。

- ①②中高教員による相互授業参観の実施
同地区の中高教員が相互に授業を公開し、協議を行うことで、各校種の学習指導要領や指導の在り方を共有し、中高を見通した指導の系統性の充実を図る。

(参考URL: 県HP「英語教育の推進」)

<https://x.gd/XaCuJ>



令和 7 年度 山形県 英語教育改善プラン

情報や他者の考えなどを的確に理解し、自分の言葉で適切に伝え合うことのできる生徒の育成

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : A2以上51.2%、B1以上24.9% ⇒ R7 : A2以上56%、B1以上25%)
○CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 (R6 : 81.9% ⇒ R7 : 83%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①高校 3 年生のCEFR B1 レベル相当以上を有すると思われる生徒の割合が増加。
(R5:17.4%⇒R6:24.9%)
②授業における、英語担当教員の英語使用状況の割合が増加。
(R5:40.3%⇒R6:45.3%)

①高校 3 年生のCEFR A2 レベル相当以上を有すると思われる生徒の割合が減少した。
(R5:55.1%⇒R6:51.1%)
②生徒の英語による言語活動時間が50%以上の割合が減少した。
(英コミ I R5:62.3%⇒R6:52.9%
論理・表現 I R5:69.2%⇒R6:46.8%)
③授業における、ICT機器の活用状況が50%以上の割合が増加したが、引き続き改善の余地がある。
(R5:8.3%⇒R6:18.7%)

2. 要因分析

①英語教員指導力向上事業において、R5年度に英語教育充実研修会を実施し、教員が指導と評価の一体化について理解を深めたことで、生徒の能力をより正確に評価し、把握した上で個別最適な指導を実践する教員が増加したと考えられる。
②英語教員指導力向上事業において、公開授業者が英語使用の多い授業を公開し、研修会にて教員の英語使用がもたらす生徒の学習効果等を周知したため、教員の英語使用状況の割合が増加したと考えられる。

①②教員対象の研修会等で、生徒の英語力の向上には、生徒の英語による言語活動が影響することを踏まえた指導・助言及び五つの領域を結び付けた統合的な言語活動を通じた指導に着眼した指導・助言が十分ではなかった。
③教員対象の研修会等で、ICTの活用が生徒の英語による言語活動の充実に影響することに着眼した指導・助言が十分ではなかった。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③言語活動の割合増加の推進
言語活動を通して、生徒の英語力を向上させるため、県の英語教員指導力向上事業における研修協力校の公開授業・研究協議会やAIの活用による英語教育強化事業におけるモデル校の公開授業・研究協議会等にて、主に研修協力校やモデル校での取組みを参加者と共有し、域内への普及を図る。また、AIやICTが生徒の発信能力を育成するための言語活動と親和性が高いことを示せるような実証研究を行う。

①②中高教員による相互派遣研修の推進
同一地区の中高教員が互いの授業内容を理解するとともに、中高を通じた教科指導の在り方について共有するため、中高教員相互派遣研修において、中高連携についての研究・協議を行う。

①②英語ディベート力育成の推進
特に上位層の育成を図るため、県のグローバル化に対応した英語指導力向上事業にて、ディベートの研修を充実させ、ディベートやディスカッションという即興で生徒が英語を話す高度な言語活動を授業で行うことを普及する。

②教員の外部試験受験の推進
教員の英語力向上の一助となる外部試験受験を推進するため、県の英語教員指導力向上事業にて、TOEIC Listening & Reading / Speaking & Writing IPテスト団体受験料の補助を行い、機会をとらえて情報提供を積極的に行う。

山形県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	55.1	50	51.1	56	53.8	58		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	17.4	20	24.9	25	19.7	25		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	62	100	53.1	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		60	45.7	60	46.9	60		65		70	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	70.2	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	52.6	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		85	82.6	85	81.2	85	81.1	90		90	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	40.3	100	45.3	100	35.2	100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	49.2	50	46.6	51	47.2	54		57	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	69.6	73		75		78		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	97.1	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	80	73.4	75		80		83		85	
		達成状況の把握（％）	80	78.7	80		83		87		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	35.3	40	42.1	43	55.8	44		45	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		80	63.2	70		70		73		75	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	86.9	90		93		97		100	
		公表（％）	50	60.8	65		70		75		80	
		達成状況の把握（％）	80	76.1	80		83		87		90	